
幼女「おじさま、私をおかいになりませんか？」

土方 真吾

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

幼女「おじさま、私をおかになりませんこと？」

【Nコード】

N1249Z

【作者名】

土方 真吾

【あらすじ】

幼女とおっさんのグダグダな日常生活日記っぽいなにか

幼女「ねえ、おじさま?」

幼女「ねえ、おじさま?」

男「なんだい?」

幼女「とりあえず…キスして…」

男「…」ぽふっ

幼女「いやだわ、頭を撫でて欲しいんじゃないの。キスし…痛い痛いーっ!」ジタバタ

男「10年早い」ギリギリ…

幼女「ごめんなさいごめんなさいー(泣)」

男「発言には気をつけなさい」ぱっ

幼女「うう、頭が割れちゃうかと思ったわ… キスをねだっただけの、いたいけな幼女に、FVEばりのアイアンクローなんか決めるなんて、信じられないわ。鬼畜ね」頭さすさす

男「誰が鬼畜だ。むしろ、その年でFVEを知っている方が信じられんわ」がしっ ギリギリ…

幼女「痛い痛い(涙)」

幼女「恋の不思議…」&幼女「退屈なの。遊んで下さらない?」

幼女「恋の不思議…」

男「何がだい?」

幼女「ハゲでデブでオタクでオッサなおじさまの事が、とても愛しいの…」

男「…」がしっ

幼女「まあ、背後から抱き絞めるなんて… 今日のおじさまは大胆ね。もしかして、私、食べられー ひゃうっっ!」ひゅっ ズドン!

男「大人をからかうんじゃないありません」ぱっ すたすた

幼女「おじさま、カール・ゴツチばりの見事なジャーマンスープレックスは、幼女には危険だと思うの… あいたたた(涙)」

幼女「ねえ、おじさま」

男「なんだい?」

幼女「退屈なの。遊んで下さらない?」

男「何がしたいんだい？」

幼女「大人のプロレスごっこをしましょう。私、上でも下でも前でも後でもいいわ（ニコリ）」

男「じゃあ、後ろから…」がしっ

幼女「まあ、最初から後ろなんて、随分とマニアックなだね。つて、うにゃあああつ」ひゅっ　ズドン！

男「いい加減懲りなさい」

幼女「ルー・テーズのようなバックドロップ… 私、逝きそうですわ…」

幼女「そうだ！ それなら……」 & 幼女「おじさま、私をお買いになりますん」

幼女「ねえ、おじさま」

男「なんだい？」

幼女「抱っこならいいでしょう？」

男「いいよ、お風呂から出たらね」

幼女「馬鹿ね、裸の触れ合いがしたいのよ？ ソープでぬるぬるの
幼女の柔肌を弄びたくないの？」

男「わかった。こっち来て座りなさい」

とてとてぺたん

幼女「うふふ、やっぱりおじさまも男ね。裸の女の子を目の前にし
たら… って、痛い痛いにやあああ！？」

男「ヘチマタワシで良ければたっぷり弄んであげよう」「じりじり

- - - - -

幼女「ねえ、おじさま」

男「なんだい？」

幼女「こんな寒い日には、思いだしますわね？」

男「……そうだね」

ちらほらと雪の降る夜。

幼女「おじさま、私をお買いになりませんか？」

男「……」

幼女「まるで死んだ魚のような目をなさいますのね？」

男「お嬢ちゃん、お金ならあげるから、早くお家に帰りなさい。親が待っているんだろう？」
「ごそごそ ぽい」

幼女「まあ、財布ごと下さるなんて、剛毅ね？ 今夜は特別。上でも下でも前でも後ろでも好きになさって？」
とてとて ぎゅ
男「お嬢ちゃん、お家に帰りなさい。凍えてしまうよ……」

幼女「親なんて、居ないわ。待っている人も。馬鹿みたいな施設に売られて、馬鹿みたいな目にあわされたから、逃げてきたのよ」

男「お嬢ちゃんは、強いな……」

幼女「ねえ、おじさま。お話が長くなるのなら、コートのなかで、抱っこして下さらない？ さすがに寒いし、お腹もすいたの」

男「手袋どころか、靴下さえないのか…」

幼女「そうよ。もうちょつとで、動けなくなる所だったわ」

男「…おいで。このコートを羽織るんだ」ぐい、ひよい

幼女「きゃ、乱暴ですね？ でも、このコートの暖かさと、お姫様抱っこは悪くないですわ」

男「そりゃ良かった。君を飼う事にするよ。アパートに戻って、お風呂と食事で暖まろう」

幼女「素敵な提案ですわね。参りましょうか、淫靡で暖かな楽園へ」

男「…ませたお嬢ちゃんだこと（苦笑）」

幼女「ねえ、おじさま」

男「なんだい？」

幼女「抱っこしてくださいさらない？」

男「おいで（ニッコリ）」

幼女「いつも笑って居ればいいのに（ぼつり）」

男「なんだい？」

幼女「何でもありませんわ」ぎゅーっ

幼女「林檎は人間を墮落させましたのよ」

幼女「ねえ、おじさま？」

男「なんだい？」

幼女「もっと叩いてくださる？」

男「こうかい？」とんとんとん

幼女「今度はここをこすってくださいな」

男「こうだね」こすこす

幼女「ええ。じゃあ、今度はそこを撫でて？」

男「分かった…… 本当にコレで良いのかい？」さすさす

幼女「ええ、十分ですわ。じゃあ、今度は本番。私を気持ち良く

」

男「いや、その理屈はおかしい。i p o d t o u c hの使い方を教えてくれるんじゃないのかい？」

と、いうかまったく設定が終わらないんだけど」

幼女「いやね、おじさま。これも女も似たようなものですわよ。

指でなでて叩いて擦ってれば、そのうち言う事を聞くようになりますわ。

さあ、私のタッチパネルを色々髑つてくださいな（はあはあ

禁断の林檎^{ちえのみ}で墮落しましょう?」

男「うん、とりあえず世の中の林檎信者と女性のみなさんに謝ろうか……」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1249z/>

幼女「おじさま、私をおかいになりませんか？」

2011年12月16日22時56分発行